

2011. 10. 1

第34回総合リハビリテーション研究会

分科会5 総合リハビリテーションの視点から災害を考える

—東日本大震災での取り組み：これまでとこれから—

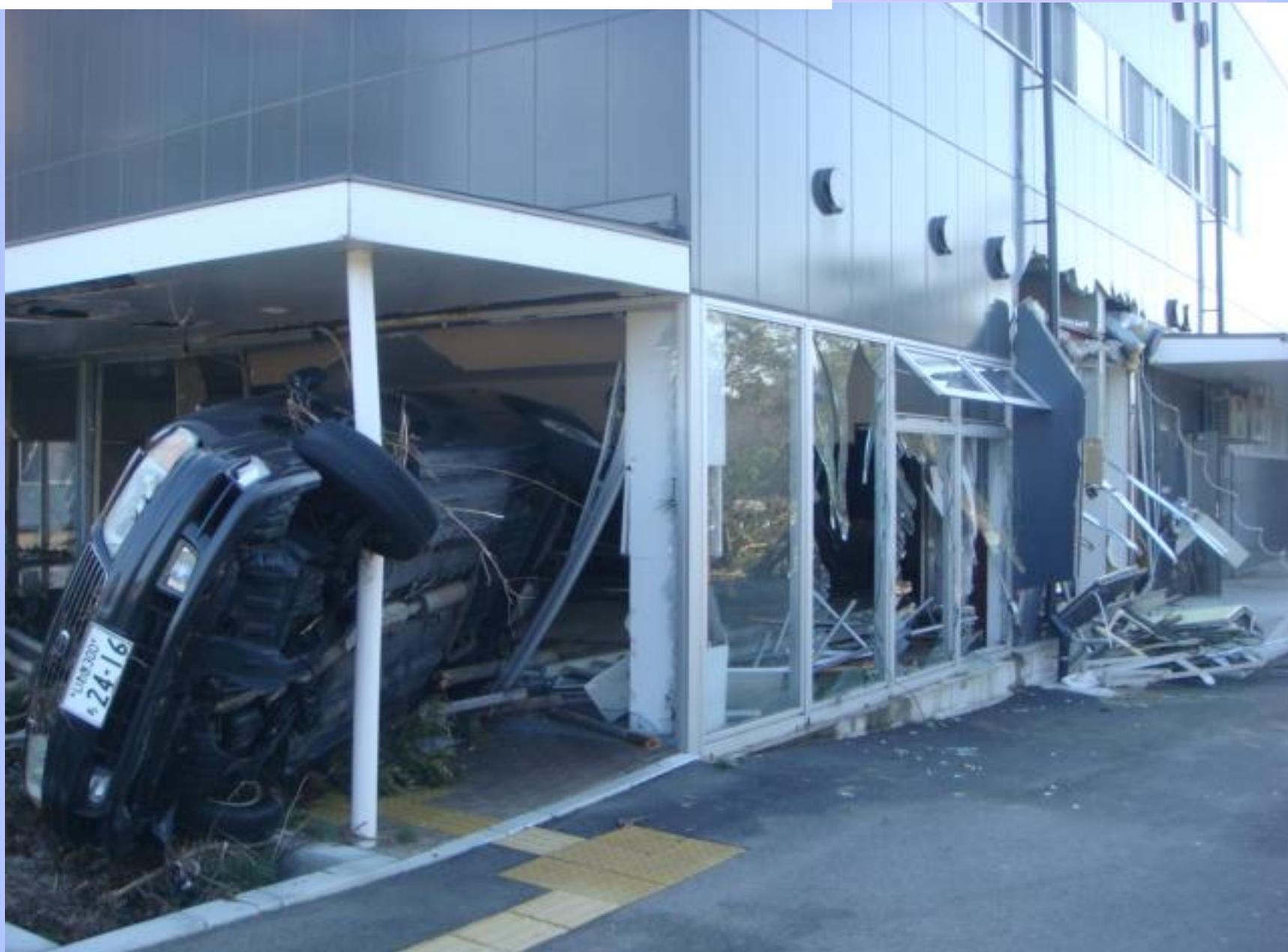
心のケア・精神科からの取り組み

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

丹羽 真一

精神科医療システムにおきた障害の 状況

舞子浜病院玄関付近車が建物に突っ込んでいる状況



● 精神障害者の主な事業者とその形態(2011. 8現在)

所在地	事業者名	施設
新地町	NPO法人ひまわりの家	グループホーム×7 就労支援B型関連施設×4 居宅介護支援事業所
相馬市		
相馬市	NPO法人ふらっと	地域活動支援センター
南相馬市 (鹿島区)	NPO法人あさがお	地域活動支援センター 就労支援B型 グループホーム×3
南相馬市 (原町区)	NPO法人ほっと悠 (小高区も含む)	相談支援事業所 就労支援B型関連施設×5
	NPO法人ポニーハウス	就労支援B型(9月から)
浪江町	NPO法人コーヒータイム	地域活動支援センター+関連施設
双葉町	NPO法人あおば	地域活動支援センター
広野町	結いの里	相談支援事業所 地域活動支援センター グループホーム

ひまわりの家3(就労支援B型)

- ・ひまわりの家(就労支援B型)
- ・3月下旬再開 フラット
- ・グループホーム7か所(ひまわりの家)

- 4月縮小再開あさがお(就労支援B型)
- 6月縮小再開ほっと悠(就労支援B型)
- 休業グループホーム3か所(雲雀ヶ丘病院、小高赤坂病院)
- 4月再開グループホーム・ケアホーム3ヶ所(あさがお)

他地域で再開検討中コーヒータイム(就労B型)

休止中あおば共同作業所(就労支援B型)

いわきへ移転再開 結いの里
相談支援事業所、グループホーム)

警戒区域



雲雀ヶ丘病院
6月下旬～
外来週2日のみ

小高赤坂病院
休診

双葉厚生病院
休診

双葉病院
休診

高野病院
縮小営業中

新地町

相馬市

飯館村

南相馬市

葛尾村

浪江町

双葉町

大熊町

富岡町

川内村

楢葉町

広野町

2011.8.1現在

米倉一磨氏作成

福島医大・心のケアチーム



こころのケアチーム いわき地区へ

県精神保健福祉センター

県北

4月～他県からの心のケアチームに依頼 避難所

福島市

県立医大
災害対策

心のケアチーム

- 【医学部】
 - ・神経精神医学講座
- 【看護学部】
 - ・精神看護学領域
 - ・心理学教員

県北地域でのチーム編成
 センター：精神科医師・保健師・CP
 県：CP
 医大：看護学部教員（精神・心理）

医療活動 & 保健活動

相双地域でのチーム編成
 ＊県外からの精神科医師
 看護師・心理士・PSW
 等
 医大：精神科医師
 医大：看護学部教員（精神）
 相双保健福祉事務所保健師

医療活動 & 保健活動

いわき市でのチーム編成
 医大：精神科医師
 医大：性差医療医師
 + 医大：看護師・CP

診療活動： 4/11～「こころの相談室」

避難所

新地町

避難所

相馬市

在宅者訪問

公立相馬総合病院臨時精神科外来

避難所

南相馬市

在宅者訪問

避難所

いわき市

ケアチームの活動

—いわき編—



【福島医大こころのケア・チームの活動内容】

①避難所 40～60カ所の巡回と支援者のケア

被災者全般&精神科患者さんへのケア

1日に各チームが各避難所3～5カ所巡回。

フォローケースは週1回再度面接。

⇒ 『医療機関の機能回復までのつなぎ役』

②保健所への個別相談 入院ケースに対応

【活動内容 続き】

③在宅支援

措置入院歴のある患者や保健所が経過を見ていたり、訪問時、気になるケースは早期に在宅訪問。

⇒再燃予防。

④保育園 幼稚園 8か所 子供たちと親、先生へのケア⇒小児科医と講演、集団及び個別相談

⇒ほとんどが子供の異常行動や被爆に対する不安。ニーズが非常に高い

⑤保健所での乳児健診の際に兄弟・母へのケア

⇒気になるケースは別室で個別面接

ケアチームの活動
—相双編—

こころのケアチームのミーティング



6月 公立相馬総合病院にて 午後のミーティングの様子

公立相馬病院精神科臨時外来

外来受診者数（平成23年3月29日～6月末）

◆	外来開設日数	65日
◆	受診者延数	851名
◆	1回平均受診者数	13.1名

心のケア

—その課題と方向性—

2011年(平成23年)8月10日

福島の転校1.4万人

公立小中 全児童・生徒の1割

福島県内で公立の小中学校に通う約1万4千人の児童・生徒が、既に県内外に転校したか、夏休み中の転校を希望していることが同県教育委員会のまとめで分かった。全児童・生徒の1割近くにあたる。多くは「放射線への不安」を理由に挙げたという。

県教委によると、7月15日時点で県外に転校した児童・生徒が7672人、県内の転校が4575人いた。夏休み中に転校を希望して

いる児童・生徒は、県外が1081人、県内が755人だった。東京電力福島第一原発のある「浜通り」地域だけではなく、福島市や郡山市など「中通り」地域からの転校も多いという。

夏休み中の転校希望者に理由を聞いたところ、県外転校希望の約4分の3が「放射線への不安」と回答。県内転校希望の約半数は「仮設住宅への引っ越し」を理由にした。

県教委は「事故の収束が

見えず、転校を決めた家庭が少なくないのでは。保育

園や幼稚園児を含めると、子どもの県外流出は深刻な問題だ」としている。

被災者の心悲鳴

広がるうつ・アルコール依存 地域での支援必要

予防訴える専門家

被災地では、うつ・アルコール依存の予防への関心と知識を、専門家に委ね、被災者が避難所から仮設住宅へと移って、高めてもらう活動を続けている。松下山生副院長は、うつ・アルコール依存の危険が高まっていると、「保健師が積極的に人の話を聞きつけて、指摘する。地域のコミュニティが残る被災地では、互いに支え合っていくことが必要だが、被災地では、健全な生活が保たれていない。周囲に気遣い、精神科専門医として実績を積み上げていく必要がある」と訴えている。

東日本震災の被害に、うつ・アルコール依存が広がっている。家族や家を失った被災者や先の見えない暮らしの不安、避難所や仮設住宅の生活でのストレスが原因だ。専門家は、「コミュニティや地域社会にもうつの必要性を訴えていく」。

「生きているのがやだなあ」

家に戻れず悲観

「死んだ方がいいのか、近は効かなくなり、1時間も生まれからずっと悶々と目が覚め。1日一回は「生きているのがやだなあ」と言ってしまう。」「死にたい」。東京電

力福祉第一原発から約500mの緊急時避難準備区域にある福島県広野町が同県いわき市のホテルに避難した女性86がうつを患っている。5年前に夫を酒量で亡くした。30年以上住んだ家に戻れる見込みはない。避難後、眠れなくなって睡眠薬を処方されているが、最



「うつと呼ばれる夢を見る。恐ろしく眠れない」。男性は避難所でよく夜に叫ぶ。他の避難者から「お加減にしては」と言われるという。福島県会津若松市などの避難所を月まる巡回していた京都府の心のケアチームは、800人を診察した。このうち震災が原因とみられる反応性うつと診断された患者は51人(19.6%)だった。いわき市の精神科・心療内科専門の新田目病院は、新規患者が大幅増えた。うつは自殺の原因にもなる。同県内の5、6月の自殺者の人数は計18人と昨年の1.2倍だった。

「朝8時40分からコップ2杯」

仕事なく酒量増

アルコール依存症患者も目立ち始めている。7月中旬、久里浜アルコールセンター(神奈川県)の「心のケアチーム」から飲み始めましたか?」が、岩手県船渡市の仮設

住宅に住む一人暮らしの男性(78)を訪ねた。部屋に

遺影や妻の写真を囲まされた仮設住宅で朝から焼酎を飲む男性。入院は「絶対嫌だ」という岩手県大船渡市、岡崎です。(画像は、部加していません)

は、妻の遺影や離れて暮らす子どもの写真が並ぶ。男性のそばには、2、3日入りの焼酎の瓶が置かれていた。元ご職、若いころから仕事が終わると飲んでいた。「酒やめたら、何が楽しみなんだ」と、同チームの真栄里仁(まえばし)精神科医長によると、継続訪問、やるべきがない。集落の仲間を訪ねれば、朝から飲む日が続く。

別の仮設住宅でも、一人暮らしの男性(67)が酒を飲みながら待っていた。マツ口漁船に乗っていたが、11年前に足を痛め、仕事を失った。「酒やめたら、何が楽しみなんだ」と、同チームの真栄里仁(まえばし)精神科医長によると、継続訪問、やるべきがない。集落の仲間を訪ねれば、朝から飲む日が続く。

別の仮設住宅でも、一人暮らしの男性(67)が酒を飲みながら待っていた。マツ口漁船に乗っていたが、11年前に足を痛め、仕事を失った。「酒やめたら、何が楽しみなんだ」と、同チームの真栄里仁(まえばし)精神科医長によると、継続訪問、やるべきがない。集落の仲間を訪ねれば、朝から飲む日が続く。

震災後、自殺者が急増 因果関係は不明 政府が情報収集に乗り出す

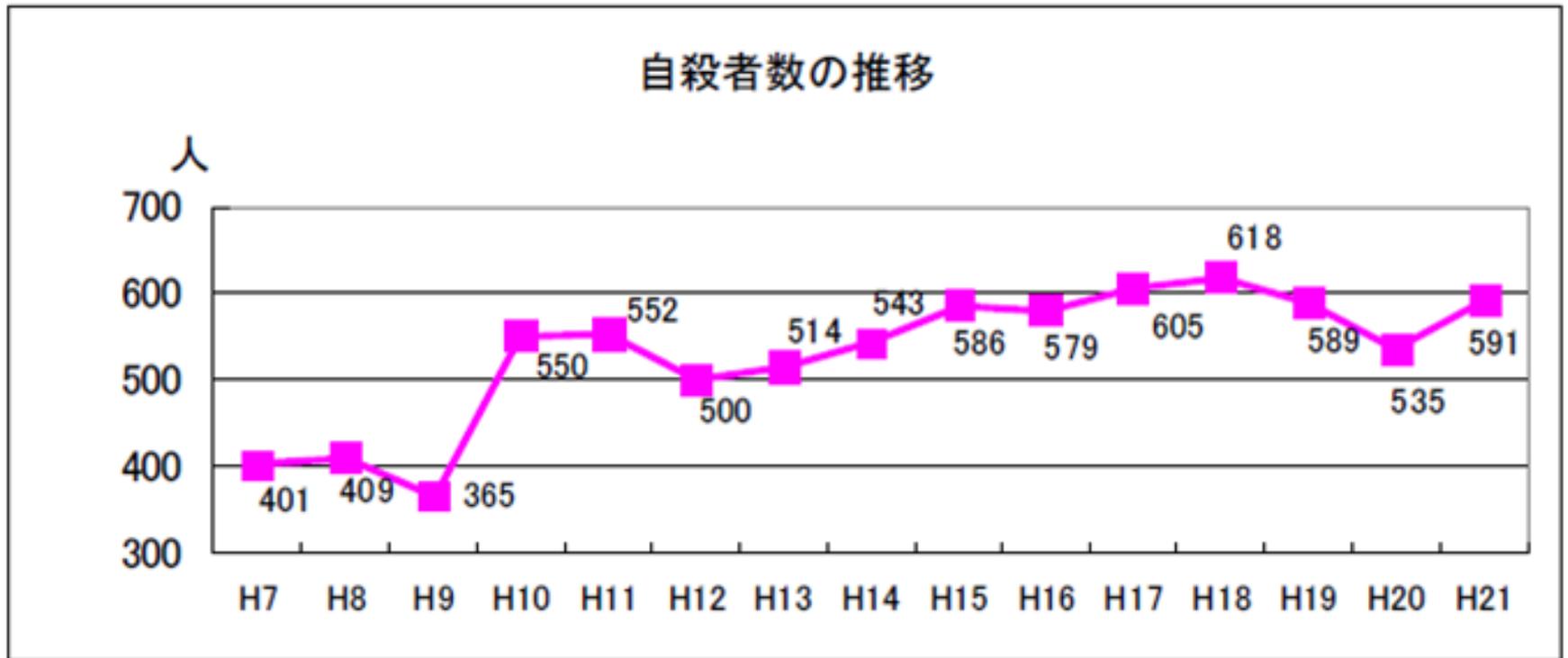
2011.7.16 00:15

自殺者が急増している。4～6月は3カ月連続で前年同月を大幅に上回った。津波で自宅を失い無理心中した高齢夫婦、放射能汚染で野菜の摂取制限が出された翌日に自殺した農家…。政府は対策に生かすため詳細な情報収集に乗り出した。

- 6月11日、福島県相馬市の酪農家の男性（55）が自殺しているのが見つかった。フィリピン人の妻と息子2人は福島第1原発事故の影響でフィリピンに帰っていた。「原発さえなければ…」。男性は堆肥小屋の壁にこう書き残していた。
- 飯舘村では4月中旬、102歳の男性が死亡しているのが見つかった。家族が村外に避難し、離れ離れで暮らしていたことを苦にした自殺とみられている。
- 6月下旬には「老人はあしでまといになる。お墓にひなんします」と遺書に記し、自殺した南相馬市の93歳の女性もいた。

警察庁のまとめでは、福島県内の自殺者数は4月以降、3カ月連続で前年同月を上回っている。特に5月は40%近い上昇率を示しており、震災の影響をうかがわせる数字といえる。

県内の自殺者推移



月あたり平均 46人

出典：人口動態統計（厚生労働省）

資料：福島県保健福祉部「保健統計の概況」

こころのケアの課題

- 1 精神疾患患者の治療の継続と維持
- 2 震災・原発事故のために新たに発生するPTSDやアルコール依存などへの早期介入
- 3 高齢者の認知機能低下の抑止
- 4 自殺の抑止
- 5 医療・福祉スタッフのメンタルケア力の向上

こころのケア — 効果的枠組み

- 1 医療、保健、福祉を総合して
- 2 地域のつながりを大切にして
- 3 生活の再建を基本にして

相双に新しい精神科
医療・保健・福祉システムを
つくる会の事業

仮設住宅へのアプローチ(新地町・相馬市・南相馬市)



- 「いつもここで一休みの会」
- 「サロン」
- 全戸訪問(11・3・7月)

「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」構想図

相馬市保健センターおよび
南相馬市原町保健センターでの活動

- 「ちょっとここで一休みの会」



職員の心の相談/健診:年1回

- 相馬広域消防署員
- 高校教員
- 新地ホーム
- 役所/役場職員



未受診者・治療中断者の治療導入への支援

- 相談
- 訪問

精神科医療保健福祉
関係者へのアプローチ

- 研修会
- 定期ミーティング
- DVD作成

精神科小規模
デイケア

訪問看護
(24時間対応)

入院ベッド(2~3床)
(危機介入・レスパイトケア)

巡回車の運行

訪問

搬送方法の確立



中通りの病院へ

福祉施設(地域活動支援センター/
グループホーム等)

自宅

